

通信による教育相談の研究

研究第5部 村山貞雄
上野己美子

I 緒 言

この研究の内容は、通信相談にあらわれた内容を統計的にしらべることである。

両親が幼児を育てている途中で、どんな問題があらわれるかを知ることは、幼児教育の研究をする重要なきっかけになる。

そこで幼児教育の研究のいとぐちを得る目的で、この研究に着手した。

この研究の結果、今回の発表で述べられた内容は、それぞれの手紙を、ごく簡単に要約して、もっとも単純な

主訴にし、この主訴を基礎にして、いろいろなことを考察したものである。しかし一つ一つの手紙の内容は複雑であり、それぞれの手紙は、教育学の面からも実におもしろい内容をふくんでいる。この複雑な内容を、純粹例などもとりあげて研究すれば、さらに興味のある発表になることであろう。

なお通信相談の研究については、これよりさらに以前のものに関してすでに教育心理学会などの学会で発表した。

II 研究方法

昭和34年1月から43年8月までの約10年間に、小学館の幼児向きの雑誌「よいこ」と「幼稚園」を通じて寄せられた通信相談は、約5,000通である。このうち3,032通について検討した。

すなわちこれらの相談内容を分類し、どんな相談内容が、どの年齢、性、都市別、年度に多いか比較してみた。

このような通信相談の研究は、その内容にたちいて具体的に考察する事例的な研究法、問題の内容について時間的にさらに研究してゆく追跡的な研究法などがあるが、今回は単に量的にながめる統計的なまとめかたを試してみた。また、その統計の結果にたいする解釈もできるだけ少なくした。これは、主力を客観的な数量におこうとしたためである。

III 研究内容

A 相談内容の分類

相談内容の分類は、第1表の通りである。この表は、異常を伴う相談を大きな分類のⅠ～Ⅶにまとめ、異常を伴わない相談をⅧとしたものである。そして以上の分類に入りにくいものをⅨとした。なお異常を伴うⅠからⅦまでの相談のうち、本人に異常があることによって起こる相談をⅠ～Ⅵとし、本人以外、たとえば本人のまわりの家族や友達などに異常があることによって起こる相談をⅦとした。

ⅠからⅦまでの分類に大部分の相談すなわち3,022通のうち3,017通までが入った。これらの分類に入らなかったものが、大分類のⅨに入れられたのであるが、その数は15通である。この15通の内容は、次のようである。

○都庁でしている教育相談のことについて

- 幼稚園の寄附について
- 牛乳のストロモチュームが心配
- 保育園の経理の仕方、とり方
- 子どものことで、隣りの親との間がうまくいかない
- 斎藤文雄先生の住所を知りたい
- 「秀」をひびると呼びたいが
- 「よいこ」10月号に載っていた叱らぬ母親の内容についての疑問
- もう1人子どもが欲しい、養女について
- 子どもが幼稚園に行きたがるが、経済的に無理なのでどうしたらよいか
- 二段ベットについてよいかどうか
- ピストルを買い与えたが、かまわないか
- 仲良しが園に合格したのに、本人が落ちたので

第1表 相談内容の分類
Table 1. Classification of Problems consulted about by Letters from Parents

I 基礎的生活	A 睡眠 B 食事 C 排泄 D その他	イ 寝る時の悪習慣 イ 食事の量と質 イ おもらし イ 清潔	□ 寝つき寝おき □ 食事の態度 □ 夜尿、便 □ 着衣	ハ 夜驚 ハ 間食 ハ 排泄の回数 ハ その他
II 遊びの生活	A 遊び	イ 遊びの態度	□ 遊びの内容	ハ その他
III 社会的生活	A 社会性 B 家族に対する態度 C 交友態度 D 園に対する態度	イ 社会性の不足 イ 依存的態度 イ 非交友性 イ 登園の態度	□ 社会性の過剰 □ 反抗的態度 □ 反交友性 □ 園内での態度	ハ その他 ハ 下の子による態度の変化 ハ その他 ハ 通園の態度
IV 基礎的な能力	A 言葉 B 知能 C 身体	イ 言語遅滞 イ 高い知能の相談 イ 発音が悪い	□ 吃音 □ 低い知能の相談 □ 身体の異常	ハ 発音異常 ハ 集中出来ない ハ 疾病
V パーソナリティ (性格と行動)	A 不安定 B 極端 C 癪 D 物とお金に対する態度 E 興味 F 歪曲 G 人に対する態度 H その他	イ 神経質 イ 消極的 イ かんだりしゃぶる癪 イ 物欲が強い イ 興味過剰 イ 意地悪 イ 独占欲が強い	□ 憶病 □ 我が強い □ いじわるの癪 □ 物を粗末にする □ 興味の不足 □ すねる	ハ 泣き虫 ハ 乱暴 ハ 身体的な癪 ハ 物をいじりたがる ハ その他 ハ 退行
VI 学習指導	A 知育 B 才能教育 C 学校教育	イ 質問 イ 絵画 イ 就園	□ 文字 □ 音感 □ その他	ハ 読書
VII 環境	A 家庭環境と教育 B 友達環境と教育 C 学校と教育	イ 就園	□ その他	
VIII 異常を伴わない教育相談	A 発育の基準と程度 B 育児の方法 C 教育の方法	イ 知能 イ 睡眠 イ しつけ方	□ 発育 □ 身体 □ 芸能教育	ハ 育児法 ハ 就園
IX その他				

村山他：通信による教育相談の研究

= 睡眠中のくせ = その他 = その他の習癖	ホ 歯ぎしり			
= 下の子に対する態度の変化 = 先生に対する態度	ホ 兄弟げんか ホ その他	ヘ 来客による態度の変化	ト 下の子をいじめる	チ その他
= 話し方の異常 = 左利き	ホ 悪い言葉の使用 ホ その他	ヘ 話しが下手	ト その他	
= 涙もろい = おこりっぽい = 性的な癖 = お金に対する態度	ホ 落ち着きがない ホ 弱虫 ホ 行動的な癖 ホ その他	ヘ 異常言動 ヘ 動作がおそい ヘ うそをつく	ト こわがる ト わがまま ト その他	チ その他 チ はずかしがる リ まねをする ス 無口 ル 甘える フ 気が強い フ 内弁慶 カ 根気がない カ その他
= 算数	ホ その他			
= 排泄 = 就園後の指導	ホ 学習指導の方法			

第2表 通信相談の発信地Ⅰ（都市化別）上位15位

Table 2. Distribution of the Place of Dispatch of Letters for Consultations, I

順位	六大都市	頻数	市	頻数	町	頻数	村	頻数
1	東京	343	大阪府	190	東京都	36	三重県	6
2	大阪	127	兵庫県	117	北海道	36	長野県	5
3	名古屋	95	神奈川県	87	兵庫県	33	愛媛県	5
4	横浜	85	埼玉県	76	広島県	33	奈良県	3
5	京都	65	静岡県	73	愛知県	29	香川県	3
6	神戸	59	広島県	72	埼玉県	23	福岡県	3
7			福岡県	65	岡山県	23	岐阜県	3
8			北海道	64	福岡県	23	岩手県	3
9			千葉県	64	岐阜県	22	千葉県	2
10			愛知県	63	静岡県	16	埼玉県	2
11			岡山県	51	三重県	15	静岡県	2
12			東京都	50	京都府	15	愛知県	2
13			山口県	45	徳島県	14	滋賀県	2
14			長野県	42	宮城県	11	広島県	2
15			三重県	42	滋賀県	11	山口県	2

〔注〕市町村の欄には五大都市を含まない。

第3表 通信相談の発信地Ⅱ（府県別）

Table 3. Distribution of the Place of Dispatch Letters for Consultations, II

順位	地方名	頻数	%	順位	地方名	頻数	%
1	東京	429	14.1	26	岩手	28	0.9
2	大阪	325	10.7	27	手川	27	0.9
3	兵庫	209	6.9	28	島良	27	0.9
4	愛知	189	6.2	29	福奈	25	0.8
5	神奈川	180	5.9	30	香	25	0.8
6	北海道	107	3.5	31	鳥根	25	0.8
7	埼玉	102	3.4	32	群馬	21	0.7
8	東京	101	3.3	33	大分	21	0.7
9	静岡	97	3.2	34	熊本	19	0.6
10	福岡	91	3.0	35	鹿児	19	0.6
11	福岡	91	3.0	36	福井	18	0.6
12	岡山	74	2.4	37	青森	18	0.6
13	千葉	72	2.4	38	秋田	17	0.6
14	山重	63	2.1	39	栃木	16	0.5
15	山口	58	1.9	40	栃木	16	0.5
16	長野	57	1.9	41	高知	15	0.4
17	岐阜	50	1.6	42	鳥取	13	0.4
18	新潟	50	1.6	43	佐賀	13	0.4
19	宮城	43	1.4	44	宮崎	13	0.4
20	茨城	41	1.4	45	山梨	10	0.3
21	愛媛	38	1.3	46	山形	10	0.3
22	徳島	33	1.1	47	海部	2	0.1
23	滋賀	31	1.0	48	不	43	1.4
24	和歌山	31	1.0				
25	和歌山	29	1.0		合計	3,082	99.9

○性格が正反対の双生児について

○友達の家では、菓子をもって帰ってくるのに、遊びに来た友達は、絶対もらわないで帰るがよいか

B 通信相談の発信地と時期

イ 通信相談の発信地について

通信相談の発信地について、まず都市化別の姿をながめると、第2表の通りである。この表について東京都をみると、区部は六大都市の第1位になっている。また町でも第1位だが、市は12位、村は0通である。

市町村ともに、上位を占めているのは、広島、北海道、埼玉、静岡、福岡である。

六大都市と市町村を分けずに都道府県別にながめると、第3表の通りである。この表における47番の海外とは、シンガポールとスペインである。第3表によると、1位から5位までを、六大都市のある都道府県が占め、これに広島、北海道、埼玉の順で続いている。

これをさらに大きく地方別にみると、関東、近畿、中国、中部、九州、東北、北陸、四国、北海道地方の順になる。(第4表参照)

以上の頻数は、通信相談が全国のうち、どういところから来ているかということを示すものであるが、やはり六大都市が多く、全体の22%を占めている。

なおここ10年間、この順位にあまり変化はみられない。

ロ 通信相談の時期について

通信相談は、10年間それほど極端な差はなく、だいたい平均して投書されている。

なお1年のうち、どの月が相談の手紙を書く人が多いかということ調べてみると、年により多少の変化はみられるが、5月が一番多く、9月がこれに続いている。また12月が一番少なく、7月がこれに続いている。5月や9月が多いということは春や秋が多いということであり、夏と冬が少ないのであるが、これは何か理由のある

第4表 通信相談の発信地Ⅲ(地方別)

Table 4. Distribution of the place of Dispatch of Letters for Consultations, Ⅲ

順位	地方名	頻数	%
1	関東	860	28.4
2	近畿	570	18.8
3	中国	486	16.0
4	中部	397	13.1
5	九州	209	6.9
6	東北	143	4.7
7	北陸	111	3.7
8	四国	109	3.6
9	北海道	102	3.4
10	海外	2	0.1
11	不明	43	1.4
合計		3,032	100.1

ことであろう。これを図であらわすと、第1図のようになり、夏と冬の少ないことも分るが、この図は、投函の月が不明な0.9%のものを除いた残りの99.1%のものについて統計をとったものである。

C 通信相談の幼児

相談の対象である幼児について成長別、性別に人数をながめると、第5表のようである。この表によると、4歳前半の男児が一番多く、全体の45%を占めている。

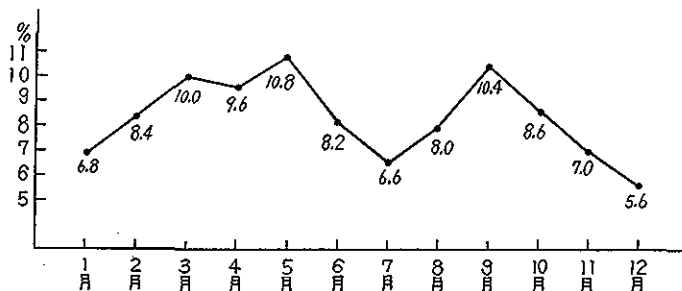
なおこの表で分るように7才以上の児童が38名いたがこれらの児童に関する相談は、この研究が幼児の教育相談に限定したため、これから述べる相談内容の検討においては、すべてこれを省いた。なお不明の29名も同じように省いた。

この内容をさらに分りやすくするため、各年令の人数をグラフであらわすと、第2図のようになる。

この図によってみると、3~4才台が相談がきわめて

第1図 月別による通信相談の頻数

Fig 1. Frequency of Consultations by Letters in Each Month



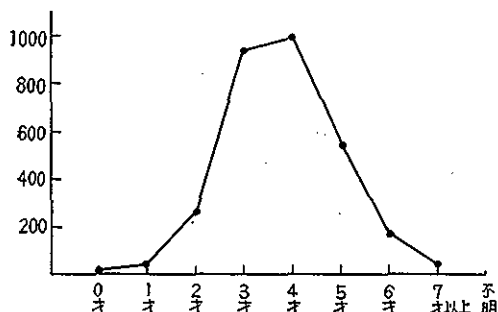
第5表 通信相談の幼児の年齢と性

Table 5. Age and Sex of Children whose problems were consulted about by Letters

	0才		1才		2才		3才		4才		5才		6才		7才以上		不明
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
男	2	1	7	8	54	106	267	315	352	245	222	115	104	13	16	2	
女	2	1	7	9	51	65	171	193	248	136	127	76	61	7	17	3	
小計	4	2	14	17	105	171	438	508	600	381	349	191	165	20	33	5	
合計	6		31		276		946		981		540		185		38		29

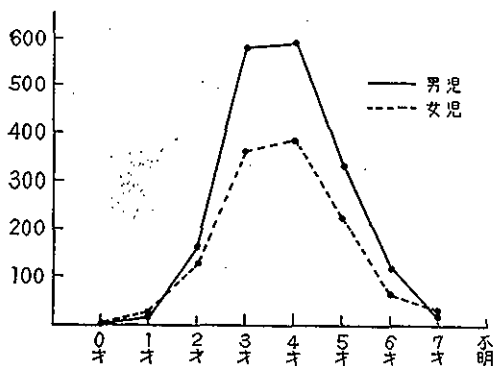
第2図 通信相談の幼児の年齢

Fig. 2. Ages of Children whose problems were consulted about by Letters



第3図 通信相談の幼児の男女別年齢

Fig. 3. Ages of Children whose problems were consulted about by Letters (by Sex)



多いことが分る。これは、この年齢に問題が多いことが一つの有力な原因であろう。実際のこの年齢は今まで家の中の生活だけだったのが外の生活も多くなり、行動範囲が広がる時期である。

第2図をさらに性別に示すと、第3図のようである。

この図によってすぐ分るように、ピークの3~5才においても女児のほうが、ずっと少なくなっている。

D 相談内容の検討

イ 相談内容の頻数について

相談内容の分類に関する第1表について、どの内容がどれぐらいの手紙がきているか統計をとったところ、第6表のようになった。

この結果によると、大分類ではVの「パーソナリティ」が一番多く、続いてⅢの「社会的生活」が多い。

次に中分類では、ⅣのAの「言葉」が一番多いが、中分類について多い方から10種類の内容をあげると、第7表のようである。

さらに幼児の問題をもっとも具体的にあらわしている小分類についてみると、ⅣのAの口の「吃音」が一番多い。小分類で頻数の多いものから10の内容をあげると、第8表のようである。

ロ 相談内容と性別について

相談内容について幼児の性別にどのような変化があるかを次に述べよう。

まず大分類について男児に多く女児に少ない内容(男女の比較は、以下、両者の差による)をみると、Vの「パーソナリティ」とⅢの「社会生活」である。

全体として男児に関する質問が多いことが大きな原因となって、女児の方が頻数が多いものはみあたらない。しかし女児も比較的多いものは、Ⅶの「環境」とⅧの「異常を伴わない教育相談」である。

次に中分類について、男児が女児にくらべ頻数の多いものを、多い方から5つとりだすと、第9表のようである。同様にして女児に多く男児に少ないものを4つとりだすと、第10表のようである。

次に小分類についても、男児が女児にくらべ頻数の多いものを、その極端なものから順に10とりだすと、第11表のようである。

第6表 相談内容の頻数

Table 6. Frequency of Problems consulted about by Letters (following Table I)

I 355	A 90	イ 33	ロ 7	ハ 16	ニ 34	ホ 0													
	B 61	イ 29	ロ 30	ハ 0	ニ 2														
	C 185	イ 108	ロ 45	ハ 16	ニ 16														
	D 19	イ 10	ロ 2	ハ 7															
II 102	A 102	イ 91	ロ 10	ハ 1															
III 723	A 73	イ 65	ロ 7	ハ 1															
	B 158	イ 57	ロ 56	ハ 5	ニ 0	ホ 7	ヘ 12	ト 17	チ 11										
	C 256	イ 196	ロ 39	ハ 21															
	D 236	イ 143	ロ 76	ハ 2	ニ 9	ホ 6													
IV 584	A 409	イ 48	ロ 209	ハ 124	ニ 9	ホ 11	ヘ 2	ト 6											
	B 45	イ 6	ロ 27	ハ 12															
	C 130	イ 13	ロ 32	ハ 30	ニ 38	ホ 17													
V 879	A 277	イ 31	ロ 16	ハ 70	ニ 1	ホ 115	ヘ 7	ト 35	チ 2										
	B 393	イ 96	ロ 32	ハ 52	ニ 12	ホ 5	ヘ 16	ト 42	チ 10	リ 9	ヌ 9	ル 16	ヲ 24	フ 26	カ 2	コ 42			
	C 149	イ 48	ロ 8	ハ 7	ニ 56	ホ 11	ヘ 13	ト 6											
	D 30	イ 15	ロ 8	ハ 0	ニ 5	ホ 2													
	E 11	イ 8	ロ 1	ハ 2															
	F 11	イ 3	ロ 4	ハ 4															
	G 6	イ 6																	
	H 2	イ 2																	
VI 161	A 106	イ 5	ロ 52	ハ 18	ニ 27	ホ 4													
	B 48	イ 33	ロ 15																
	C 7	イ 6	ロ 1																
VII 88	A 37	イ 37																	
	B 36	イ 36																	
	C 15	イ 4	ロ 11																
VIII 172	A 12	イ 12	ロ 0	ハ 3	ニ 8														
	B 15	イ 2	ロ 2	ハ 3	ニ 8														
	C 145	イ 17	ロ 22	ハ 73	ニ 11	ホ 22													
IX 15	A 15																		

第7表 多い中分類の内容

Table 7. Problems often consulted about (by median-classification)

順位	内 容	頻 数
1	言葉	409
2	極端	393
3	不安定	277
4	交友態度	256
5	園に対する態度	236
6	排泄	185
7	家族に対する態度	158
8	癖	149
9	教育の方法	145
10	身体	130

第8表 多い小分類の内容

Table 8. problems often consulted about (by minor-classification)

順位	内 容	頻 数
1	吃音	209
2	非交友性	196
3	登園の態度	143
4	発音異常	124
5	落ち着きがない	115
6	おもしろ	108
7	消極的	96
8	遊びの態度	91
9	園内の態度	76
10	就園	73

しかし「身体の異常」と「消極的」が一方であらわれ一方であらわれていないことは興味がある。なお順位についてみると、男児の1位の「吃音」が女児では3位になっており、少しずつの移動がみられる。

ハ 相談内容と幼児の年令について

最後に幼児の年令と教育相談の内容をみよう。

まず大分類についてながめると、第13表のようになり、年令によって大きな変化はみられない。

次に中分類で各年令について多いものを5つずつあげると、第14表のようである。

次に小分類では、各年令について多い内容を多い方から10つあげると、第15表のようである。

この表をさらに年令別にまとめると、第16表になる。(多い方から15つあげた。)

これらの表によってみると、2～5才の子どもに「吃音」と「非交友性」の問題が多いことが分る。また2～3才では、「おもらし」が多い(2才で2位、3才で3位)が、4～5才では、グッと下位の方になっており(4才で14位、5才で11位)、年令の進むにしたがって頻数がさがっている。また3～4才で「就園の問題」が多くなっているのがめだつ。したがって「園内での態度」と「登園の態度」に関する相談も約1年おくれて4才から始まり、6才までズーツと大きな問題としてつづいて

第13表 相談の内容と年令(大分類)
Table 13. Contents of consultations by Age

年 令	相 談 の 内 容
1:0~1:5	VI, I, V, VIII, III
1:6~1:11	V, IV, III, I, VII, VIII
2:0~2:5	IV, V, I, III, VIII, VI, II, VII
2:6~2:11	V, IV, III, I, VI, II, VIII, VII, IX
3:0~3:5	V, IV, III, I, VII, VI, II, VII, IX
3:6~3:11	V, III, IV, I, VIII, VI, II, VII, IX
4:0~4:5	V, III, IV, I, VI, VIII, II, VII, IX
4:6~4:11	III, V, IV, I, VI, VIII, VII, II, IX
5:0~5:5	III, V, IV, I, VI, VIII, VII, II, IX
5:6~5:11	V, III, IV, I, VIII, VI, II, VII
6:0~6:5	V, IV, III, I, VIII, VI, VII, II, IX
6:6~6:11	V, III, I, IV, VIII, VII

いる。なお「左利き」が6才になって出てきているのは、6才になって字を教えるようになると逆字を書くなどして母親が困り手紙を書くにいたったものが多いためである。

第14表 各年令に多くあらわれる内容(中分類)

Table 14. Problems often consulted about in Each Age (by median-classification)

年令 順位	1 才		2 才		3 才		4 才		5 才		6 才	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
1	IVC	VA	IVA	IVA	IVA	IVA	IVA	IIID	IIID	IIID	VB	VA
2	IA	IIIB	IC	VB	VB	VB	VB	VB	VB	VA	VA	IIID
3	VB	IVA	VC	IC	IIIC	IIIC	IIID	IVA	IVA	VB	IVA	IA
4	VIIB	IVB	VB	IIIB	IC	IC	VA	VA	IIIC	IIIC	IIID	IVA
5	IB	VC	IVC	IIIC	VA	VA	IIIC	IIIC	VA	IVA	IVC	VIIA

III 要 約

私たちは、幼児のための手紙による教育相談を、昭和34年から行なってきた。この相談は、株式会社小学館が発行している幼児向けの月刊雑誌「よいこ」と「幼稚園」によって行なわれ、村山貞雄が回答してきた。

その相談の数が、約5,000に達したので、この機会にそのうち3,032通について、統計をこころみた。

この研究は、村山貞雄と上野巳美子によって行なわれたが、二人のほかには立川扶美枝氏が協力した。

通信相談の主訴の内容を大きく分類すると、次のようである。括弧のなかは、手紙の数である。

- I 基礎的生活 (355)
- II 遊びの生活 (102)

第15表 年齢と多い内容I (小分類)

Table 15. Problems often consulted about in Each Age (by minor-classification)

年齢 内 容 順 位	1 才				2 才				3 才			
	前 半		後 半		前 半		後 半		前 半		後 半	
	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数
1	寝る時の悪習慣	3	言語遅滞	2	吃音	14	吃音	25	吃音	40	吃音	40
2	身体の異常	2	かんだりしゃぶる癖	2	おもらし	12	おもらし	10	非交友性	35	非交友性	36
3	泣き虫	1	低い知能の相談	2	言語遅滞	7	非交友性	9	おもらし	24	おもらし	30
4	排泄の習癖	1	神経質	2	かんだりしゃぶる癖	7	遊びの態度	8	遊びの態度	17	発音異常	28
5	食事の量と質	1	こわがる	1	性的な癖	5	消極的	7	就園 (Ⅷ)	16	遊びの態度	18
6	発育が悪い	1	おもらし	1	非交友性	4	発音異常	6	乱暴	15	おちつき	16
7	疾病	1	下の子をいじめる	1	発音異常	4	かんだりしゃぶる癖	6	消極的	14	依存的態度	16
8					排泄の習癖	3	落ち着きがない	5	落ち着きがない	12	反抗的態度	16
9					落ち着きがない	3	言語遅滞	5	発音異常	10	消極的	15
10					身体の異常	3	依存的態度	5	疾病	10	就園 (Ⅷ)	14

年齢 内 容 順 位	4 才				5 才				6 才			
	前 半		後 半		前 半		後 半		前 半		後 半	
	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数
1	吃音	36	登園の態度	38	非交友性	33	登園の態度	18	落ち着きがない	12	落ち着きがない	5
2	登園の態度	34	非交友性	24	登園の態度	26	非交友性	15	園内での態度	11	登園の態度	3
3	非交友性	33	吃音	21	吃音	19	落ち着きがない	11	消極的	9	発音異常	2
4	発音異常	27	園内での態度	19	発音異常	19	消極的	9	発音異常	8	非交友性	1
5	就園 (Ⅷ)	23	発音異常	18	園内での態度	17	園内での態度	9	吃音	7	消極的	1
6	遊びの態度	20	落ち着きがない	17	落ち着きがない	16	吃音	8	登園の態度	6	夜驚	1
7	泣き虫	18	消極的	13	消極的	14	泣き虫	6	性的な癖	6	性的な癖	1
8	落ち着きがない	16	遊びの態度	11	社会性の不足	9	文字	4	左利き	6	睡眠中のくせ	1
9	おもらし	16	反交友性	9	依存的態度	8	算数	4	遊びの態度	5	先生に対する態度	1
10	社会性の不足	15	文字	9	文字	7	睡眠中のくせ	4	非交友性	4	排泄の習癖	1

第16表 年令と多い内容Ⅱ (小分類)

Table 16. Problems often consulted about in Each Half-Age (by minor-classification).

順位	年令 内容	1 才		2 才		3 才		4 才		5 才		6 才	
		内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数	内 容	頻数
1	寝る時の悪習慣	3	吃音	39	吃音	80	登園の態度	72	非交友性	48	落ち着きがない	17	
2	言語遅滞	2	おもらし	22	非交友性	71	吃音	57	登園の態度	44	園内での態度	11	
3	低い知能の相談	2	非交友性	13	おもらし	54	非交友性	57	吃音	27	消極的	10	
4	神経質	2	かんだりしゃぶる癖	13	発音異常	38	発音異常	45	落ち着きがない	27	発音異常	10	
5	身体の異常	2	言語遅滞	12	遊びの態度	35	園内での態度	34	園内での態度	26	登園の態度	9	
6	かんだりしゃぶる癖	2	発音異常	10	就園 (Ⅷ)	30	落ち着きがない	33	消極的	23	吃音	7	
7	食事の量と質	1	遊びの態度	10	消極的	29	就園 (Ⅷ)	32	発音異常	22	性的な癖	6	
8	排泄の習癖	1	反抗的態度	8	落ち着きがない	28	遊びの態度	31	社会性の不足	12	左利き	6	
9	おもらし	1	落ち着きがない	8	依存的態度	24	消極的	26	泣き虫	12	睡眠中の癖	5	
10	泣き虫	1	消極的	8	乱暴	24	泣き虫	26	文字	11	非交友性	5	
11	疾病	1	乱暴	7	社会性の不足	23	文字	24	おもらし	9	遊びの態度	5	
12	気が弱い	1	性的な癖	7	かんだりしゃぶる癖	22	社会性の不足	23	遊びの態度	9	内弁慶	4	
13	異常言動	1	依存的態度	7	反抗的態度	22	性的な癖	22	依存的態度	9	泣き虫	4	
14	発育が悪い	1	就園 (Ⅷ)	5	泣き虫	22	おもらし	20	反抗的態度	8	身体の異常	4	
15	反抗的態度	1	左利き	5	夜尿、便	21	わがまま	20	睡眠中の癖	8	絵画	3	

III 社会的生活	(723)	通信相談が最も多く投函される月は5月であり、次は
IV 基礎的な能力	(584)	9月である。逆に通信相談が最も少なく投函される月は
V パーソナリティ	(879)	12月である。全体の通信相談のうちの22%が六大都市の
VI 学習指導	(161)	母親によって書かれている。
VII 環境の問題	(88)	この研究の目的は、どのような通信相談の内容が多い
VIII 異常さを伴わない教育相談	(172)	かということ、通信相談の内容と幼児の年齢、性の関
IX その他	(15)	係をしらべることである。

A Study of Educational Consultations by Letters about Young Children's Problems

Sadao Murayama, Kimiko Ueno

Since 1959, we have been giving educational counsel by letters to the parents asking for advice on the problems of their young children.

Sadao Murayama has been in charge of consultation with the support of the monthly magazines for young children, "Yoi-ko" and "Yōchi-en", published by Shōgaku-kan Co. Ltd.

The number of these letters having reached five thousands (5,000), we tried to take the statistics of three thousand and thirty-two (3,032) of them.

This Study was done by Sadao Murayama, Kimiko Ueno and Fumie Tachikawa co-operated.

We divided these letters into nine classes according to the contents of consultation. The number of letters is shown in each part, thesis below.

I Fundamental life	355
II Playing life	102
III Social life	723
IV Basic ability	584
V Personality	879
VI Study guidance	161
VII Environmental problems	88
VIII Educational consultation about problems not involving abnormal matters	172
IX Others	15

Of all the months we received the largest number of letters in May and next in September. We received the least of letters in December. Twenty-two percent of these letters were written by mothers in Big Six Cities in Japan.

The aims of this study are to know what problems the parents wanted to consult about, and to examine the relations between the children's age, sex and the problems consulted about.